

算数科 1年

単元名：ぜんぶでいくつ

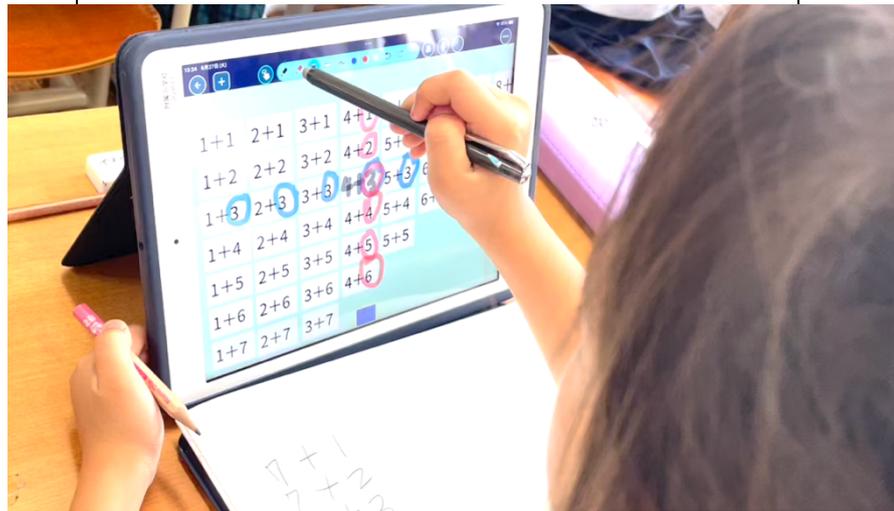
本時のねらい	和が10以下の加法の計算について、iPadで計算カードに式を書いたり、並べた計算カードに印を付け全体で交流することを通して、式の被加数と加数の並びや答えの並びに着目し、式どうしを比べたり式と答えを関係づけたりした計算のきまりを考えることができるようにする。
評価規準	和が10以下の加法の計算について、式どうしを比べたり、式と答えを関係づけたりした計算のきまりを考えている。
具体的な児童の姿	<p>式どうしを比べたり、式と答えを関係づけたりした計算のきまりに気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式の左の数が同じカードが縦に並んでいる。</li> <li>・縦に見ると式の右の数が1ずつ大きくなっている。</li> <li>・横に見ると式の右の数が同じになっている。</li> <li>・式の右の数が1増えると 答えも1増えている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

時間	児童の活動	指導〇及び留意点・ ①評価〈方法〉※支援を要する児童への手立て	準備物
5分	1. 計算練習をして、本時のめあてを確認する。	<p>○ランダムにたし算のカード（フラッシュカード）を出して、全員で計算の練習をさせる。</p> <p>・数問練習した後、計算カードを並べてある（1箇所だけ穴あきにして）紙を黒板に位置づける。穴あきのところにどんな式が入りそうか問い、見通しを持たせる。子どもたちから「順番になっている」「並びにきまりがある」のような声が出てきたところで、本時のめあてを位置づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>めあて</b> しきのならびのひみつをみつけよう。</p> </div>	黒板用 足し算カード
10分	2. ロイロノートで穴あきの計算カードに式を書き、きまりがありそうな箇所印をつける。	<p>○子どもたちのロイロノートに穴あきの並べてある計算カードを送り、子どもたちに穴あきのところに式を書かせる。その後、全体で確認し、きまりがありそうなところに印をつけさせる。</p> <p><b>※まず、縦・横・斜めの視点を子どもたちに出させ、縦のきまりを全体で共有し、その後、横・斜めのきまりを個人で印をつけさせる。</b></p> <p>・穴あきの箇所の式を全体で確認する際、どうしてその式が入るのか、全体で共有し、子どもたちの発言をもとに、一度教師が黒板に印をつけ、子どもたちが印をつける際のイメージを持たせる。</p> <p>・ロイロノートに印をつけたカードを、教師に提出させる。</p> <p><b>※計算カードのきまりに印がつけられていない児童が</b></p>	iPad ロイロノート



いた場合は、印がつけられている児童に発表させ、イメージを持たせる。

◎式どうしを比べたり、式と答えを関係づけたりした計算のきまりを考えている。 <発言分析>

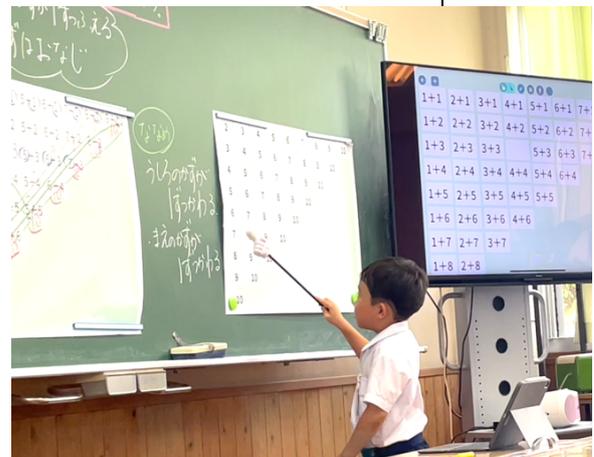


20分

3. 自分の考えを交流し、全体で発表する。

○ペアで話し合わせ、全体で交流する。

- ・全体で交流する中で縦と横の並びに着目させながら、子どもたちが気付いた意見を黒板に位置づけていく。
- ・計算カードの答えに目が向き始めたところで、答えが並んでいる紙を黒板に位置づけ、答えの並びに着目させていく。



10分

5. 本時のふり返りを行う。

○本時のめあてに対する振り返りをさせる。

※今日の授業で何が分かったのか、次の授業でしたいことなどをノートに書かせる。

◎式どうしを比べたり、式と答えを関係づけたりした計算のきまりを考えている。 <ふりかえり分析>

### 1人1台端末の使用は効果的であったか

○ロイロノートで作業をすることによって、間違えたときに何度も消すことができたり、色を自由に変えたりすることができた。

○1年生でも十分活用することができた。

▲わざわざ iPad を使わなくても、ワークシートでなどの紙媒体でもすることは可能であり、その方が1年生にとっては使い勝手良かったのではないか。